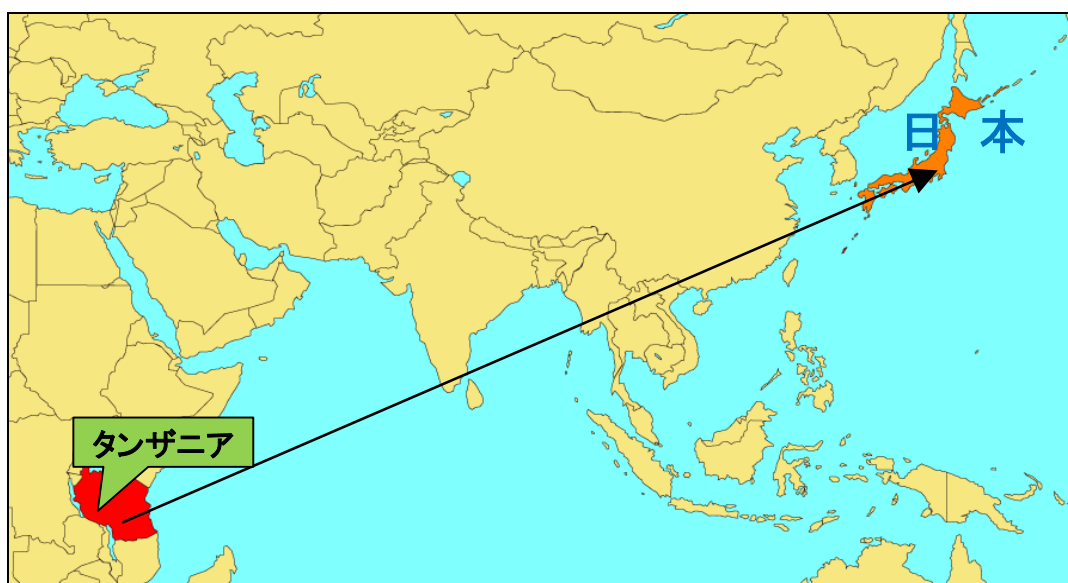


タンザニアから日本へのデング熱輸入例

2010年3月21日 ProMED 情報(国立感染症研究所)



2010年2月9日と3月10日に、タンザニアから日本へのデング熱輸入例2名が確認されました。

1例目は55歳男性で、本年1月20～27日までタンザニアに滞在し、1月29日に日本に帰国しました。この男性は1月31日に、高熱(39℃)、発疹、関節痛、および血小板減少($9.8 \times 10^4/\mu\text{l}$)で発症しました。遺伝子検査(リアルタイムPCR)により、デングウイルス3型(DENV-3)が血清中に検出され、ウイルスも分離されました。デングウイルス3型のゲノム(染色体の一部)は、2008年にコートジボワールから帰国した患者から分離されたもの(GenBank No.AB447989)と99%一致しました。

2例目の患者は23歳女性で、本年2月3～25日までタンザニアのダル・エス・サラーム Dar Es Salaam に滞在して、2月28日にロンドン経由で日本に帰国しました。この女性は3月4日に、血小板減少($4.0 \times 10^4/\mu\text{l}$)、白血球減少(白血球数 $1,800/\mu\text{l}$)、およびトランスアミナーゼ軽度上昇(AST 154 IU/L、ALT 73 IU/L)、高熱(39℃)で発症しました。遺伝子検査(リアルタイムPCR)により、血清中にデングウイルス3型が検出されました。抗デング IgG と IgM 抗体も陽性でした。

2例ともチクングニヤウイルスの遺伝子検査は陰性でした。

タンザニアでは、デング熱の発生が全く報告されていませんが、デング熱ウイルス3型が流行している可能性があります。

厚生労働省 福岡検疫所